

解熱鎮痛薬(一般用医薬品)について

Q

ワクチンを受けた後の発熱や痛みに対して、市販の解熱鎮痛薬をのんでもよいですか。

解熱

A

ワクチンを受けた後の発熱や痛みに対し、市販の解熱鎮痛薬で対応頂くことも考えられますが、特に下記のような場合は、主治医や薬剤師にご相談ください。

- ・ 他のお薬を内服している場合や、妊娠中、授乳中、ご高齢、胃・十二指腸潰瘍や腎機能低下など病気治療中の場合
(飲める薬が限られていることがあります。)
- ・ 薬などによりアレルギー症状やぜんそくを起こしたことがある場合
- ・ 激しい痛みや高熱など、症状が重い場合や、症状が長く続いている場合
- ・ ワクチン接種後としては典型的でない症状がみられる場合



市販されている解熱鎮痛薬の種類には、アセトアミノフェンや非ステロイド性抗炎症薬(イブプロフェンやロキソプロフェン)などがあり、ワクチン接種後の発熱や痛みなどにご使用いただけます。
(アセトアミノフェンは、低年齢の方や妊娠中・授乳中の方でもご使用いただけますが、製品ごとに対象年齢が異なりますので、対象をご確認のうえ、ご使用ください。)

ワクチン接種後に 起こりやすい症状・起こりにくい症状

起こりやすい症状

- ・発熱は接種後1~2日以内に起こることが多く、必要な場合は解熱鎮痛剤を服用いただくなどして、様子を見ていただくことになります。
- ・頭痛
- ・疲労
- ・筋肉痛
- ・悪寒（さむけ）
- ・関節痛などがあります。



発熱の原因を見分けるには (ワクチンか新型コロナウイルスか)

発熱以外に、咳や咽頭痛、味覚・嗅覚の消失、息切れ等の症状がないかどうか、手がかりとなります。

(ワクチンによる発熱では、通常、これらの症状はみられません。)

ワクチンを受けた後

- ・2日間以上熱が続く場合
 - ・症状が重い場合
 - ・ワクチンでは起こりにくい上記の症状がみられる場合
- 医療機関等への受診や相談をご検討ください。



出典：厚生労働省ホームページ

薬局では一般用医薬品を販売しております。
わからないことがあればいつでも当薬局スタッフにお聞きください。



関西薬局・あかり薬局・ヘルシー薬局